

水泳部部長の受難

2

スタンプ



水泳部部長の受難 2

前回までのあらすじ

名門大学の水泳部に所属するハジメは、部長で人望も厚い期待の選手だった。しかし、部内では監督や一部の後輩による強圧的で不公平な指導やいじめが横行し、部内には閉塞した空気が漂っていた。それに真正面から立ち向かっていたハジメだったが、監督の佐々木と後輩の田中はそれをよく思っていなかった。ある日後輩の田中にバーに呼ばれ行ったことで状況が一転する。

バーで薬をもらえ、眠らされたハジメはバーのマスターに無理やり調教されてしまう。写真や動画で脅されたハジメはマスターのそして、二人の言いなりとなるしかなくなってしまう。

同時にハジメが助けていた後輩の木村が既に監督と田中に奴隷にされたいたことを知る。監督と田中に命令されながら、強制的に性交させられ、蔑まれた二人。逃げられない運命の中で、二人はあらたな快樂への道を進みはじめていた。

あれからの日々

部活に来ていなかった後輩の木村と久々に再会し、強制的にセックスさせられたあの日以来、木村とは会っていない。

自分はというと、日中は大学に部活、夜は時折 SM バーでのバイトもしくは監督と田中のパシリという忙しい日々を過ごしている。木村は部活も退部し、大学はかろうじて出席させてもらっているが、それ以外の時間は監督と田中に使われたり、親父相手の売りをさせられているらしい。あのルックスなら高く売れるとのことだ。

自分は今のところ、これまでどおりの生活をさせてもらっている分、幸せなのだろう、、、。

もちろん毎日のように監督と田中、マスターには「指導」されて、、、いや、していただいている、、、。いつ木村のような扱いになるか分からない不安の中、従順に命令を聞いていくしかない、、、。

部活動

監督と田中は、部長のハジメが意見してこなくなったため、部活においてますますやりたい放題になっている。

木村が以前履かされていた白の薄手のハイグレビキニ水着は今はハジメが履かされている。ハジメはその水着についても散々監督に意見し、木村に履くのをやめさせていただけに、それをハジメが履いているのを見て、部員たちは不思議に思っていた。中には、木村と同じように監督のターゲットにされたのだろうと察する者もいた。

準備体操では、監督命令で部長が前に出て、皆の方を向きながら体操をさせられるようになり、ハジメが動くたびに股間がゆれ、部員たちは失笑、苦笑、爆笑等それぞれ反応していた。

また、部員たちが何か粗相すれば、すべて部長責任にされるようになった。1年部員が練習に遅刻してくると、皆が練習している横で、ハジメはプールサイドに頭だけプールの上に浮いた状態でうつ伏せで寝かされ、罵倒しながらの水責めが行われた。

監督：お前は何できちんと指導ができねえんだ！つかえねえな！

すいませんでした！あ、、ぶくぶくぶくぶくぶく、、ぶうううぶううぶくぶくぶく、、、。

横で立たされて見ている1年生も気が気ではなかったろう。今まで勇敢に監督に意見していたハジメをいたぶることで、誰も監督に逆らおうとするものはいなくなっていき、監督の支配力をさらに強めていった。

監督：1年は悪くねえよ！全部このクズが悪いんだ！なあ、、、そうだよな！

ぶはああ、、はあ、、はあ、はあ、、はああ、、ハイ、、、すべて部長の俺のせきに、、ぶうううぶくぶくぶくぶくぶく、、、、。

監督：黙れよ！お前は黙って反省してろ！ははは。

プールサイドで魚のようにのたうつハジメに、横で見ていた1年は申し訳な

さそうにしている。

すると監督が、ハジメの水着を T バック風にくいこませて、尻を出し、叩き始める。

パンパンパンパンッー。

かなり強めに叩き、ハジメの尻は赤くなっていく。

監督：ほら 1 年お前もたたけ、こいつを指導してやれ w

1 年：で、、、ですが、、、。

監督：お前もたたいてほしいよな？立派な部長になりたいんだもんな？

ぶはあ、、、はあ、、はああ、はあ、あ、、、、ハイ、、、立派な部長になりた、、、ぶくぶくぶくぶく、、、ぶぶううう、、、、。

監督：だとよ、叩いてやれよ、逆らう気か？

1 年：叩きます！

パンパンパンパンッー。

ハジメの尻はますます赤くなっていく。

監督：ははは、お前水着今日このまま T バックにしておけ、指導されたのがよくわかっていいじゃねえか。

そういうと、監督はよろつくハジメを無理やり立たせ、目立つところの柱に皆の方に尻が向けるようにし、縛り付ける。背中にはマジックで大きく「反省中」と書かれている。

そう、以前ハジメがやめさせたが、木村がされていたように、、、。

監督のパワハラに何も言い返すことができずに、言いなりの姿をさらし、監督の見せしめにつかわれているハジメは悔しくて仕方がないが、どうすることもできずにいた。

(ううう、、、なんてみじめなんだ、、、部活でもこんな扱いをされるなん

て、、、。)

部員たちはその光景を見て、部長を心配するもの、馬鹿にするもの、どうして言いなりになっているんだと不思議がるものと様々だった。ハジメが縛られている横を皆とおって更衣室にもどるが、誰も助けることはできない。ただ、ハジメのみじめな姿をみるしかできなかった。

田中にいたっては、他の部員の前で得意気にハジメの尻を何発もたたいたり、水着をちからいっぱいもちあげて更に食い込ませた姿をさらしたりして爆笑していた。

練習が終わり部員が皆いなくなると、先ほどの1年とともに男子トイレに連れていかれる。

監督：さっきのだけじゃあまだ十分反省できていないようだからなw

(俺がどれだけ反省しようと、この人は俺に何か罰を与えるに決まっている、、、。)

そう思いながらもハジメは常に自分が悪いという態度を示すようにしていた。これ以上のお仕置きを避けるために。

はい、申し訳ありません。再度ご指導お願いいたします！

1年部員は相変わらずおろおろと見ているだけだ。

監督：じゃあこの小使用の便器舐めてきれいにしろ。

え、、、。

監督：できないのか？

にやけている監督の顔はかなり怖い、機嫌が悪くなっていくのがわかる。

やらせていただきます！